

# ながいも栽培で土壌くん蒸剤の使用を考えている皆様へ

代替技術  
のお知らせ  
です。

国において「みどりの食料システム戦略」が策定されるなど、グリーンな栽培体系への転換が推進されており、特に土壌くん蒸剤は削減に向けた動きが加速しています。

- 予防のために土壌くん蒸剤を使っていますか？
- 土壌くん蒸剤の使用により、翌年以降の根腐病の発生リスクがかえって高くなるというデータがあります。

土壌くん蒸剤は高い防除効果がありますが、健康への悪影響や環境負荷が高いなど、デメリットも多々あります。

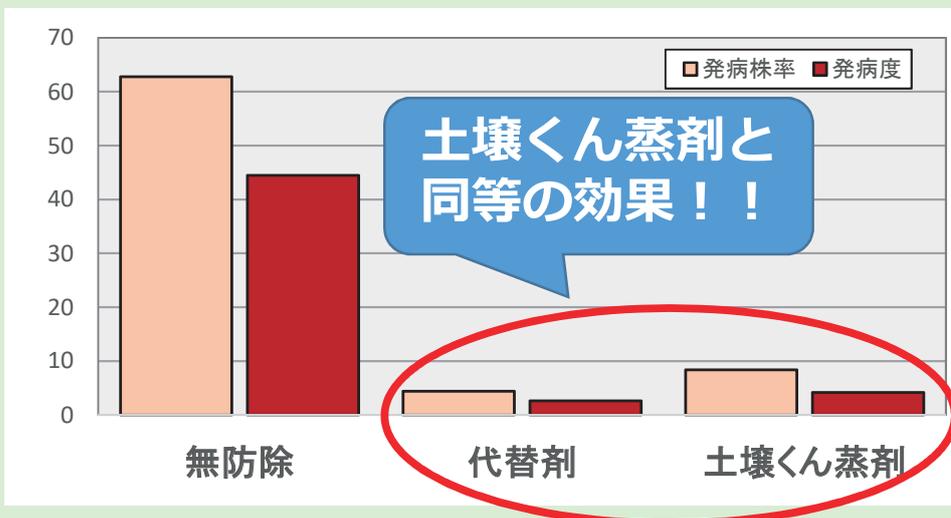
まずはできる限り緑肥を組み込んだ輪作体系に取り組んでいただくようお願いします。

緑肥の取組が難しく、根腐病の発生が問題となる場合は、代替剤（ユニフォーム粒剤）の活用を御検討ください。



## ながいもの根腐病に対する代替剤の防除効果

（地独）青森県産業技術センター野菜研究所試験（令和4年）



試験場所： 六戸町（野菜研圃場）  
供試品種： ながいも（新世紀）  
植付日： 令和4年5月24日  
試験薬剤の処理方法等：

- ①代替剤：令和4年5月19日にユニフォーム粒剤18kg/10a を作条土壌混和処理
- ②土壌くん蒸剤：令和4年4月25日～5月16日にクロルピクリンくん蒸剤（30ℓ/10a処理）により土壌消毒

病害発生状況：  
ながいも根腐病多発条件（培養病原菌をトレンチャー耕で土壌混和）

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認してください。  
農林水産省「農薬登録情報提供システム」 <https://pesticide.maff.go.jp/>



土壌くん蒸剤と代替剤の比較	その1	その2	その3	その4
	安全面	コスト面	省力・軽労化面	作業時間面
土壌くん蒸剤	劇物で取扱いに十分な注意が必要。安全確保のために防護具、被覆が必要。	薬剤費は安価であるが、被覆資材費などが必要で全体のコストは高い。	被覆や除覆が必要なほか、資材の廃プラ処理作業が必要。	薬剤処理後の消毒期間が必要（植付の約1か月前から作業開始が必要）
代替剤 (ユニフォーム) 粒剤	普通物で粒状の殺菌剤。薬剤処理時の被覆が不要。	薬剤費は増加するが、被覆が不要で <b>全体コストは安い</b> 。	施薬機による <b>トレンチャー耕と同時処理が可能</b> で追加作業が不要。	消毒期間が不要で、 <b>薬剤処理後すぐに植付が可能</b> 。

表 10アール当たりの作業時間及び防除コスト

(令和4年青森野菜研試験での実績より)

使用薬剤	作業時間	薬剤費	被覆資材費	人件費	廃プラ処理費	合計
ユニフォーム18kg	<b>1.92h/10a</b>	41,160円	—	1,638円	—	<b>42,798円</b>
カルビクリン30ℓ	<b>4.54h/10a</b>	36,345円	11,846円	7,822円	1,369円	<b>57,382円</b>

## ■ユニフォーム粒剤の使用に当たっての留意点■



- ※土壌くん蒸剤使用時とは異なる施肥設計が必要です。
- ※本剤は殺菌剤であり、状況に応じて別途除草が必要です。
- ※耐性菌の発生抑制のため、連用を避け、輪作体系への移行に努めてください。
- ※本剤は粒径が小さいため、施薬機が植溝の真上に位置するよう取り付けてください（スムーズな吐出のため、ホースの曲がりを受けてください）。
- ※2連トレンチャーでは施薬機が2台必要です。購入、取付等はお近くの農機具メーカーに御相談ください。

(本情報に関する問合せ先)

青森県農林水産部食の安全・安心推進課 環境農業グループまで

TEL : 017-734-9353 FAX:017-734-8086